

平成 2 6 年度第 1 回 小高区地域協議会会議録

- | | |
|---|--|
| 1 | 日 時：平成 2 6 年 4 月 2 4 日（木）
午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 5 分 |
| 2 | 場 所：小高区役所 第 3 会議室（2 階） |

・ 小高区地域協議会委員数：1 5 人、当日出席委員：1 3 人（欠席委員 2 人）

【出席委員名】

山澤 征、	堀内 行信、	林 勝典、	宝槻 晶子、
小林 友子、	齋藤 幸子、	阿部 治幸、	伊藤 勇、
佐藤 良一、	渡部 幸史、	白髭 幸雄、	中村 眞木、
後藤 素子			

（説明職員等）	副市長	江口 哲郎
	小高区役所長	村田 博
	小高区地域振興課長	松本 実
	同 振興係長	堀川 信浩
	同 庶務係長	根本 剛美
	同 振興係主査	青田 吉彦（書記）
	小高区産業建設課長	阿部 正夫
	小高区市民福祉課長	武内 英俊
	総務課財政課長	西谷地勝利
	同 財政係長	小迫 佳行

1 開 会（地域振興課長）

2 委嘱状交付

出席委員に対し、江口副市長から委嘱状を交付しました。

3 副市長あいさつ（江口哲郎 副市長）

本日は、市長が公務により東京へ出張しているため、代理で参りました。

委員の皆様には、大変忙しい時期、期間にあって、委員の就任に快諾をいただき、御礼を申し上げます。また、これまでも市政にご協力をいただきまして市長に成り代わりまして感謝を申し上げます。ご承諾を頂きまして大変ありがとうございます。

この地域協議会は市の附属機関として、市民の声を集約していただき、市政

全般の推進に役立てていく機能を持っています。また、この協議会の委員について、公平、中立性を考え、推薦委員会を設けて委員の選定を進めてきたところです。特に合併に際して、地域協議会の活動をされてきたところですが、震災後の3年間で地域の状況が様々に異なっています。小高区の中でも、多様多難な課題が横たわっていると認識しています。そのような状況の中で、地域協議会の中でいろいろな声を集約していただき、また、市政に反映していただくことが大事と思っています。昨年の暮れまでに避難指示区域の扱いについては、平成28年4月で避難指示を解除するという目標を定めるに至ったわけですが、それに向けて課題を解決するため、平成26年度、27年度という皆様の委嘱期間があると思います。平成28年4月の解除時期は確定ではありませんが、それに向けて施策が積みあがるように、市民生活がこの地域でしっかり再建できるように、再興できるように、基礎を築いていく年にしていこうと市役所では申し上げています。今、津波被災者の集団移転に向けて、9割方が着工しています。先日、鹿島区で初めての災害公営住宅が建ったということで、生活環境回復について平成26年度中に進めていきます。また、大きな課題である除染についても、仮置き場の整備が進み、事業が始まっています。このような、地域で生活を再建するために必要な事業を、遅れることなく、平成26年度に基礎として積み上げていかなければ、27年度、28年度に向けての議論ができないと思っています。その中で、小高区地域協議会におかれましても真摯な議論を賜って、市政に様々なご意見をいただければ幸いです。委員の皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

4 委員紹介 委員名簿（資料）順に委員紹介。

5 職員紹介 出席職員の紹介。

6 会長及び副会長の選出

副市長が議長となり、委員の互選で会長を選出しました。

・会 長 山澤 征

山澤会長が議長となり、委員の互選で副会長を選出しました。

・副会長 堀内 行信

7 会議録署名人の指名

山澤会長の指名により、次の2名を会議録署名人としました。

・林 勝典 委員、 宝槻 晶子 委員

8 議 事

（１）報告事項

平成２６年度当初予算の概要について

(財政課長)【資料により平成２６年度予算の概要を説明。】

・質疑

(白髭委員) 私は、原発に３０年勤務し、現在の収束工事に従事しているが、その中で、放射線防護に関係する仕事もしている。そこで、帰還に向けた取り組みや放射線に対する不安の払しょくなどの事業内容を見ると、放射線防護に対する視点が欠けているように見える。復興・復旧作業と放射線防護は車の両輪のような形でなければいけない。チェルノブイリでは、未だに環境放射線測定を３０年近くも継続されている。この地域でもそういったことが必要と思っています。そういう視点での事業を国だけでなく、市でも取り組むべきと思います。

(財政課長) 重要な意見を頂いたと思います。市でも、放射線に対する専門家として、東大の先生をはじめ、助言をいただく機会も多く持っており、放射線防護の観点でも、除染に関する助言、健康管理、職員の安全管理など、専門的な助言もいただいて、放射線防護、リスク管理をして対応していきたいと考えております。

(白髭委員) 先日、安斎先生の講演会を聞き、その内容では、高線量被ばくのリスクについては、世界の先生方でも意見は一致している。しかし、低線量被ばくや内部被ばくについては、二つに議論が分かれている。片方の意見の学者だけの意見を聞いていたのでは、不安の払しょくにならないと思う。

先日、懸の森に登り、調べてみると、土壤汚染や落ち葉の汚染がすごい。使い捨ての衣服を着て登り、その衣服の線量を調べてみると 2000 ベクレル以上付着していた。そういう付着物があることが、匂いも無いので、皆さんに理解されていない。

また、ホールボディーカウンターの測定が２回のみで、それ以降は有料になるという話も聞いている。原発作業員では、作業をしている間は、３ヶ月に１回受け続けているので、そういった視点で行って欲しい。

以前から、市の中に放射線管理課を作って、専門家を招いて、市民生活の指導や助言を頂くようにすべきです。二本松市ではそのような事をやっているように聞いているので、お願いします。

(副市長) そのようなご指摘が多いため、市民の放射線の不安に対する問い合わせに対する窓口を原子力損害対策課の中に一元化しました。しかし、放射線管理には、健康管理、食品、生活環境、除染作業など、沢山の専門的な内容に分かれるので、それらを一つの放射線管理といったところにまとめるのは難しいため、管理はそれぞれで行うようにしました。空間線量の測定もしていますし、食品検査の結果も公表しています。空間線量モニタリングや個人線量計での測定などもやっています。その中で足りないのではないかと言われているのが、CPM で表示される付着物の線量や空気中のダスト濃度です。

そこはご指摘されることが多いので、できるだけ対応するようには言っています。空間ダストについては、モニタリングポストほど数は無いのですが、国、県が設置している空間ダストサンプリングの結果が公表されており、その結果では南相馬市内の空間ダスト濃度は高くないとなっています。しかし、測定地点以外はどうかという指摘もあるので、できるだけ測定地点を増やしたいと思っています。市民が、日常生活で防護を常に意識しなくても生活できる環境にしていくことを目標に、まずは、空間線量の測定結果を提供し、除染を進めていきます。付着による表面汚染については、日常生活を離れて、山の中に入るときなどは、特別な防護が必要でしょうから、防護についての知識を得ていただきたい。日常生活においては、特別な防護を必要としない環境にするのが大前提です。最後に、いろいろな先生の話聞くべきだと言われます。再来週、連休明けの5月10日と11日にICRPのダイアログセミナーというものが南相馬市で行われることになりました。これは、いろいろな先生のお話を聞きましょうと言うよりは、どのような不安があるのですか、安全策はどういったものが必要でしょうかとみんなで話し合いをしましょうというものです。また、例えば、市民の皆さんと一緒に南相馬市の放射線の現状やどうしたらいいかというものを確認しながらマニュアルを作っていくことはどうかというのも放射線損害対策課で検討しています。

(白髭委員) 二本松でやっているように、市民が自主的に放射線測定をして、線量が高いところは除染を要請するなど、自主性が大事だと思います。

(小林委員) 白髭委員の発言に関連して、原町区の高見町公園で、除染が行われましたが、その後に松葉が落ちていて、測定すると2000ベクレルありました。市の福祉課にボランティアと一緒に取り除くことを提案していましたが、その後どうなっているか確認したい。

(副市長) 担当課で、小林委員に連絡を取るようには手配します。

(佐藤良一委員) 米の生産を考えているが、安心安全な作物を作って、地元の方にまず食べていただきたい。しかし、JAの大会で、南相馬市の学校給食に地元産の農産物が使われていないことについて、いろいろな問題があるという報告もありましたので、PTAだけでなく市民全体に、放射線に対する正しい認識を市としても啓発して欲しい。南相馬市にいらした方に土地の産品をお渡ししても、帰りに捨てていかれるということもあり、放射能検査をしていることについて、危険だから検査をしているという誤った認識をされている方もいるので、まずは市民に正しい認識をしていただけるようにして欲しい。

(副市長) 学校給食は強制であるため、少しでも不安を持つ保護者がいる限りは難しい。市でも食品検査で安全を確認していますので、まずは食べていただける人に食べてもらうしかないと考えています。

(白髭委員) 福島県内では全量検査しているのに対し、県外ではそうではない

ので、県内の作物の方が安全ということもできる。

(佐藤良一委員)新潟に研修に行ったとき、山の方は線量が高いのに、魚沼産というブランドで売れている事実もある。

(副市長)人間の体は、自然からのカリウムで4000ベクレル位は持っている訳で、福島が全量検査してそれよりもずっと低いのに受け入れてもらえないというのはどういうことかと思っはいます。

(林勝典委員)避難指示が解除されてから始まる事業もあるが、震災に対する支援事業で、平成28年で切れる支援事業がたくさんあるため、リストアップして、期間の延長を図るようにして欲しい。また、制度を市民に公開して、避難解除後に帰還する人達が制度を活用できるようにして欲しい。

(山澤会長)行政区長会でも制度の期間延長について、要望書を市長に手渡しているが、まだ回答が無い。

(後藤委員)これまで、南相馬市こどものつばさに、全国からの支援をいただいて、子ども達の体験事業を行ってきました。また、今年度から、福島県のふくしまっこ自然体験事業というのが始まりましたが、期間や金額等で使いづらい事業になっている。そのため、子ども達のリフレッシュのための事業を市独自で設けて欲しい。

(財政課長)市では、全国的な支援をいただいたものをPTAで一元的に調整するための予算を計上しています。それと並行して、子ども達が地域内で安心できる環境を整えなければいけないと考え、市独自の予算として、遊び場の芝生化をして放射線の影響を少なくするなど、不安を取り除き、外遊びを促進するための事業を計上しています。

(小林委員)子ども達がきれいな空気の中で過ごすことで放射線が排泄されるという話を聞いたのですが、北海道の青少年の家などに、1週間なり、長い期間で集団で行くような事業を要望します。

(林勝典委員)昨年、岩手県に行きました。岩手県でもあちこちの放射線を調べていまして、中には線量の高いところがあり、それを分析したところ、チェルノブイリ原発事故によるものということでした。全国的にも、チェルノブイリ事故の影響や中国からのPM2.5など不安な要素はたくさんあるので、わざわざ遠くに行くのでなくても、地元で安心して子供が遊べる施設を作ることにはできないのでしょうか。

(斉藤委員)小高中学校に入学した方の親から話を聞くと、仮設校舎内に大量の砂が入り込んでいることを心配されていました。仮設校舎もだいが痛んでいるようで、学校の選択を誤ったのかという話にもなっているようですが、仮設校舎の対応はどうなのでしょう。

(小高区役所長)今、市の予算について、様々なお話をいただきました。今日は、今年度予算の概要についての説明ですので、今いただいたような話は次回以降、改めて地域協議会としての協議いただき、地域協議会から意見書と

してまとめていただくこともできるかと思います。

(佐藤良一委員) 米に替わる品目として、大豆の実証栽培を考えているが、営農再開支援事業について、米以外の作物に対して、ゼオライトや電気牧柵などの対応ができるのかお聞きします。

(小高区役所長) 確認して、回答いたします。

(佐藤良一委員) 本日回答いただけないのであれば、直接担当に確認します。

(渡部委員) 小高に対する商業再開支援が不十分である。例えば、事業系ごみの処分が進んでいない。また、再開支援金も単発で継続性がない。我々事業者は、生産販売に向けて、積極的に事業の再開を考えているが、避難指示解除時期の平成28年4月に向けての準備期間というが、そういった支援が無ければ、準備しようとしても何もすることができない。我々事業者の再開に対する予算というものが無い。我々事業者も商工会と連携して頑張っていきますので、小高病院の再開のような小高に夢と希望を与える、光を当てる予算を考えて欲しい。

(地域振興課長) 先ほど区役所長が申し上げた通り、皆様が小高区のために何をやりたいのかを地域協議会で協議し、意見書としていただいて、それを元に我々が財政と交渉していくのだと考えています。その実施方法については、この場にフィードバックすることもあると思います。

(財政課長) ご指摘いただいたことは、我々も重大な課題と受け止めており、この2年間でどう使っていくか、1年目にどういう状態にするか、2年目にどういう状態にするかを、市が積極的に関わって、一緒に作っていく仕掛けを作っていかなければならないと考えています。小高の今後のロードマップについては、企画課でも懸命に考えています。当初予算に不十分な部分については、重層的に対応していきます。

(渡部委員) 市だけが一方的に主導してメニューを作っていくのではなく、我々事業者の意見を聞く機会を設けて欲しい。

(財政課長) 区役所とも連携を取って、十分要望あるいはあるべき姿を捉えて2年間有効に進めていきます。

(小高区役所長) 片付けごみが処分できなければ、お店も再開できないと考えています。県、環境省とも協議して、申し入れをして、対応してもらうようにします。

【休憩 14:50～14:55】

(後藤委員) 仮設校舎の整備事業について、運動場の整備ということがありますが、詳しくお聞きしたい。

(小高区役所長) 所管が教育委員会のため、確認して報告します。

(2) その他

(振興係長) 小高区からの避難者の状況について報告。

震災前約 12、800 名の区民が居住していました。4 月 17 日現在で、市内に避難されている方が約 6 千名、市外のうち避難されている方約 5 千 2 百名、内訳として、県内 2 千 5 百名、県外が 2 千 7 百名、転出千百名、死亡 6 百名という状況です。

- ・地域協議会の今後の進め方について
(振興係担当) 資料により説明

9 閉 会 (会長)
(終了 午後 3 時 5 分)

以上のとおり相違ありません。

会 長 山 澤 征

会議録署名人 林 勝 典

会議録署名人 宝 槻 晶 子